

富津市人口ビジョン 2040

素案

ひととひととがつながる東京湾自然海岸のまち

富津市人口ビジョン 2040

目次

第1章 基本的な考え方	-----	1
第2章 人口の現状分析	-----	1
1 人口動向の分析	-----	1
(1) 富津市人口の推移	-----	1
(2) 自然動態と社会動態	-----	2
2 将来人口の推計と分析	-----	5
3 人口減少による影響	-----	7
第3章 人口の将来展望	-----	7
1 将来展望に必要な調査分析	-----	7
2 目指すべき将来の方向	-----	10
3 人口の将来展望	-----	10

第1章 基本的な考え方

1 富津市人口ビジョン

富津市人口ビジョンは、本格的な人口減少局面に入った本市人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する基本認識を市民と共有し、目指すべき将来の方向を示すため策定するものです。

各種統計データやアンケートによる意識調査の結果等を用いて現状分析を行い、富津市創生会議及び富津市民委員会での議論も参考に、人口ビジョンを策定します。

2 期間

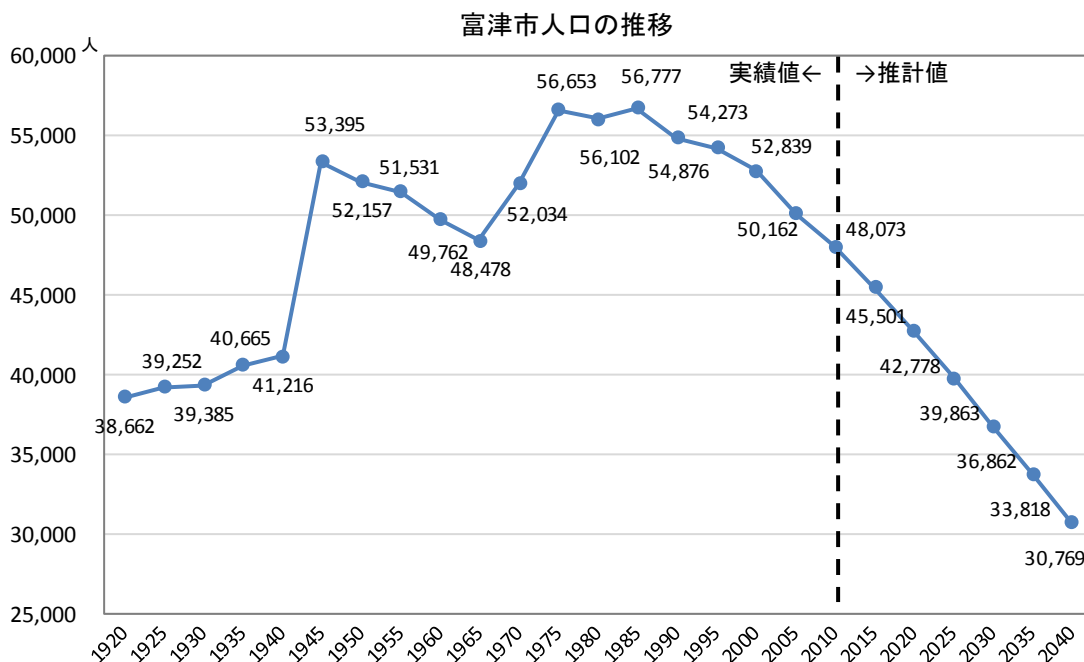
期間は、25年後の2040年（平成52年）までとします。

第2章 人口の現状分析

1 人口動向の分析

(1) 富津市人口の推移

富津市の人口は、1985年（昭和60年）の56,777人をピークとして減少に転じています。近年では、その減少幅が拡大傾向にあり、直近の2005～2010年の5年間では2,089人の減少で、減少率は4.2%となっています。



実績値は「国勢調査」・推計値は「国立社会保障・人口問題研究所」の値

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によると、市の人口は今後も減少し、2030年（平成42年）以降は、国勢調査の記録がある1920年（大正9年）以降、富津市が経験したことのない人口水準になることが示されています。

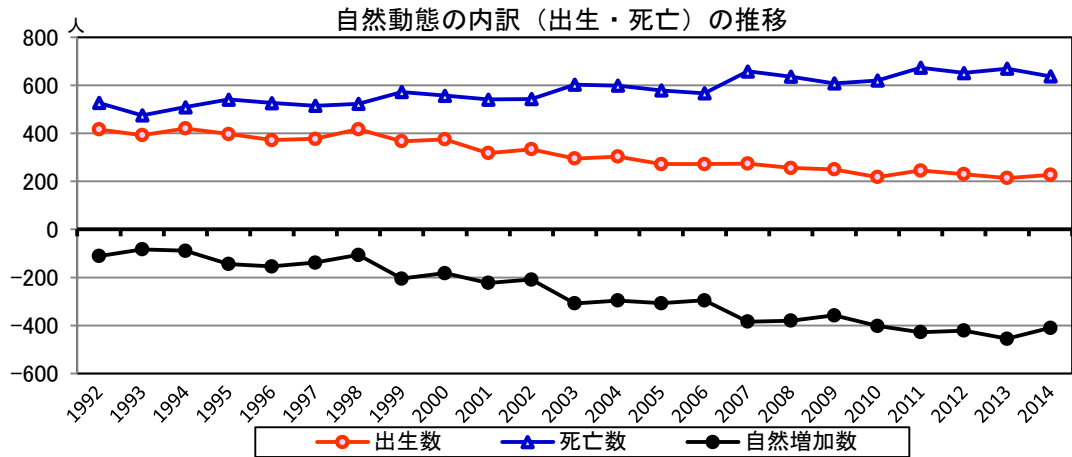
(2) 自然動態と社会動態

人口は、自然動態（出生、死亡数）と社会動態（転入、転出）の2つの要因によって変動します。

ここ数年の富津市の人口は、自然動態と社会動態を合わせて毎年 500 人前後減少しています。

① 自然動態

自然動態の内訳をみると、出生数は減少、死亡数は増加傾向にあり、ここ数年は毎年 400 人前後の減少が続いています。

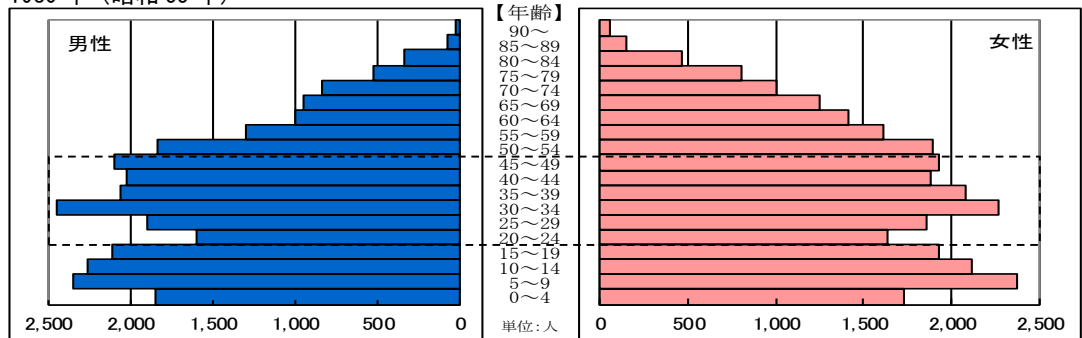


出生数減少の要因としては、(ア)若年層の人口減少、(イ)低い合計特殊出生率、(ウ)高い未婚率が考えられます。

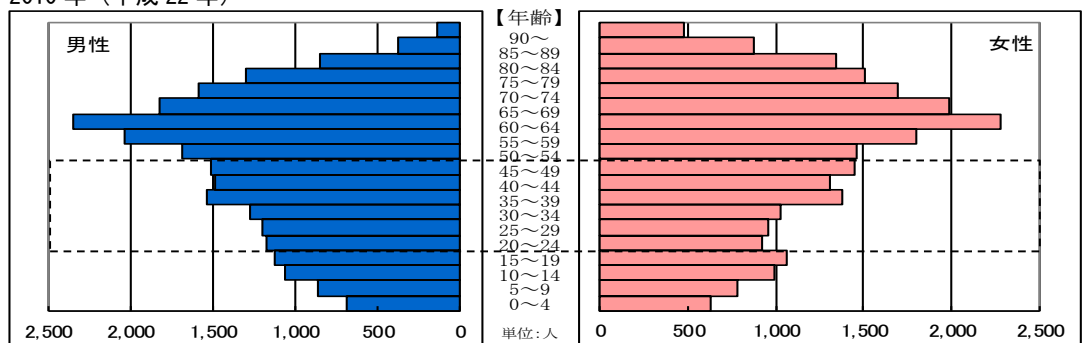
(ア) 若年層の人口減少

1980年と2010年の20歳～49歳の人口を比較すると、30年間で若年層の人口が減少していることがわかります。

1980年（昭和55年）

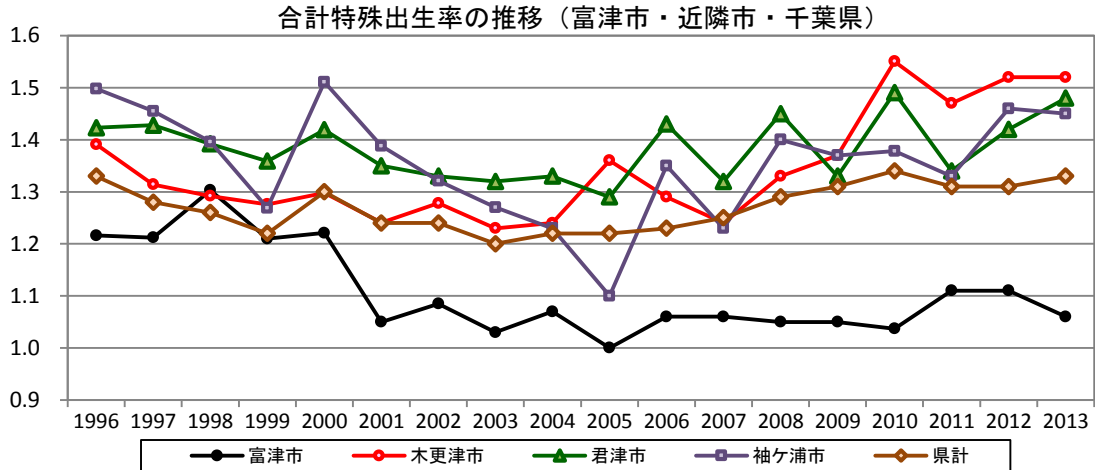


2010年（平成22年）



(イ)低い合計特殊出生率

富津市の合計特殊出生率は、君津地域の他の自治体と比較し、大きく下回って推移しています。特に2012、2013年は他の3市が1.4～1.5台で上昇傾向であるのに対し、富津市は1.1前後で推移し、その差は拡大しています。また、富津市の出生率は、千葉県全体と比較しても低い水準にあります。



合計特殊出生率とは

一人の女性が平均して一生の間に子どもを産む人数を表します。人口が長期的に増えるか減るかの指標で、将来的に現在の人口を維持できる水準は2.07とされています。

(ウ)高い未婚率

2010年時点での君津地域4市と千葉県の、年齢階層別配偶関係の動向を比較してみると、富津市では各年齢層で「未婚」の比率が相対的に高い傾向がみられます。

特に25～29歳の未婚率が高く、富津市の合計特殊出生率の低さの大きな要因となっていると考えられます。

◇近隣自治体・千葉県との未婚率の比較

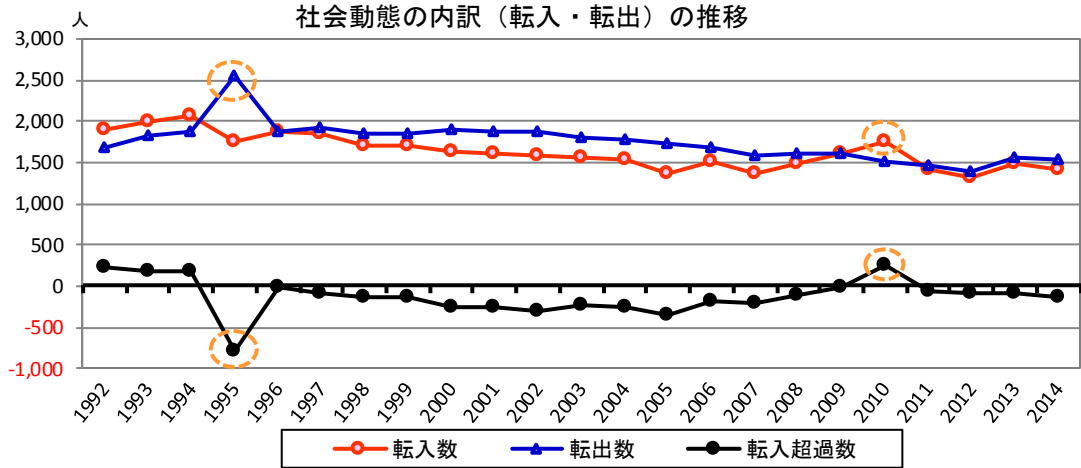
	富津市	木更津市	君津市	袖ヶ浦市	左記3市平均	千葉県
20-24歳	91.6%	88.2%	87.2%	89.0%	88.2%	92.8%
うち男性	94.6%	92.1%	90.7%	91.0%	91.3%	95.0%
うち女性	87.8%	84.0%	82.7%	87.0%	84.6%	90.4%
25-29歳	73.4%	60.5%	62.7%	62.8%	62.0%	67.3%
うち男性	80.3%	67.7%	70.4%	69.4%	69.2%	73.3%
うち女性	64.9%	52.7%	53.6%	56.0%	54.1%	61.1%
30-34歳	49.3%	38.7%	42.8%	43.1%	41.5%	41.7%
うち男性	59.0%	46.9%	51.6%	51.4%	50.0%	48.8%
うち女性	37.3%	29.7%	32.6%	33.9%	32.1%	34.3%
35-39歳	35.5%	30.4%	31.5%	29.8%	30.6%	30.0%
うち男性	46.3%	38.6%	41.4%	38.6%	39.6%	37.0%
うち女性	23.4%	21.1%	20.4%	19.7%	20.4%	22.8%

未婚率とは

未婚率 = 各年齢階層別未婚者数 ÷ 階層別人口 × 100

② 社会動態

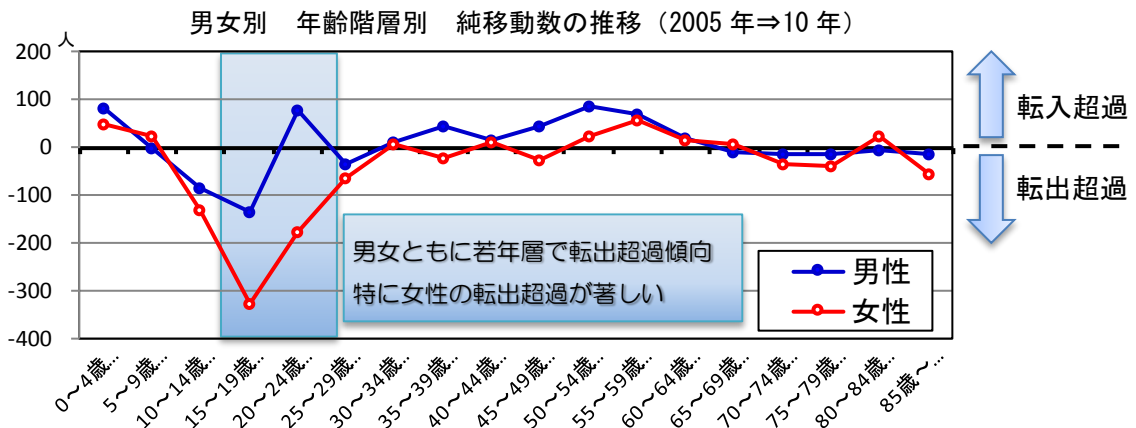
社会動態の内訳を見ると、1996年以降概ね「転出超過」となっています。2002年頃までは転出数と転入数との幅が拡大し、その後も転出超過が続いていましたが、ここ数年その幅は縮小して、毎年100人前後の減少が続いています。



※このグラフは「千葉県常住人口調査」から作成していますが、国勢調査が実施された年の転入数、転出数の数値は、国勢調査の数値に合わせて調整されています。特に1995年、2010年はその調整幅が大きかったため、時系列での流れとは異なる動きとなっています。

(ア) 年齢階層別の移動

年齢階層別の移動の状況について、男性では15-19歳⇒20-24歳の層での純移動数（15から19歳の年齢層の人が20から24歳になる間に移動した数）がマイナスとなっています。20-24歳⇒25-29歳では転入超過ですが、これは一定程度のUターンがあること、湾岸部の大規模製造業事業所等への就職者の転入があること、などが要因と考えられます。

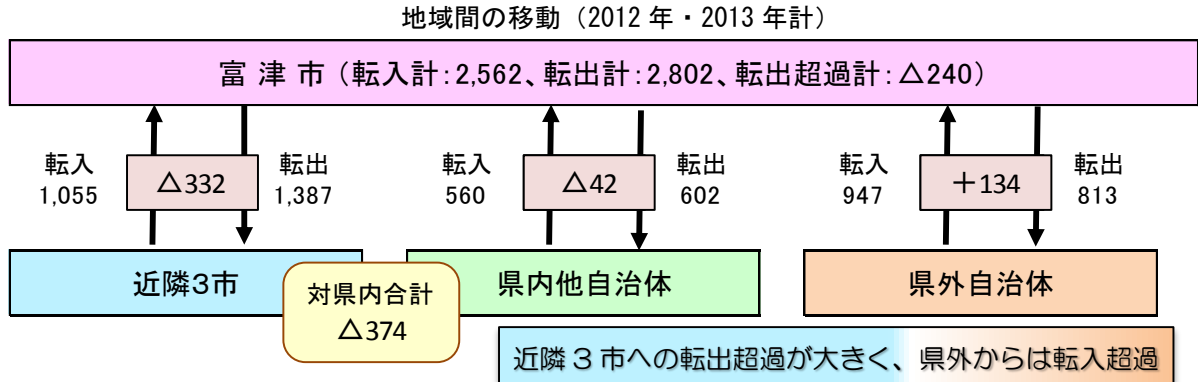


女性については、同様に15-19歳⇒20-24歳で転出超過が多く、20-24歳⇒25-29歳でも転出超過幅が大きく、「若年女性の転出」が富津市の傾向となっています。

その他の年齢層では、男女とも50歳代で転入超過傾向がみられます。この年齢層は定年退職する直前であり、壮年世代が豊かな自然の中でのゆったりとしたセカンドライフを求めて転入してくる人が相当数いるものと推察されます。

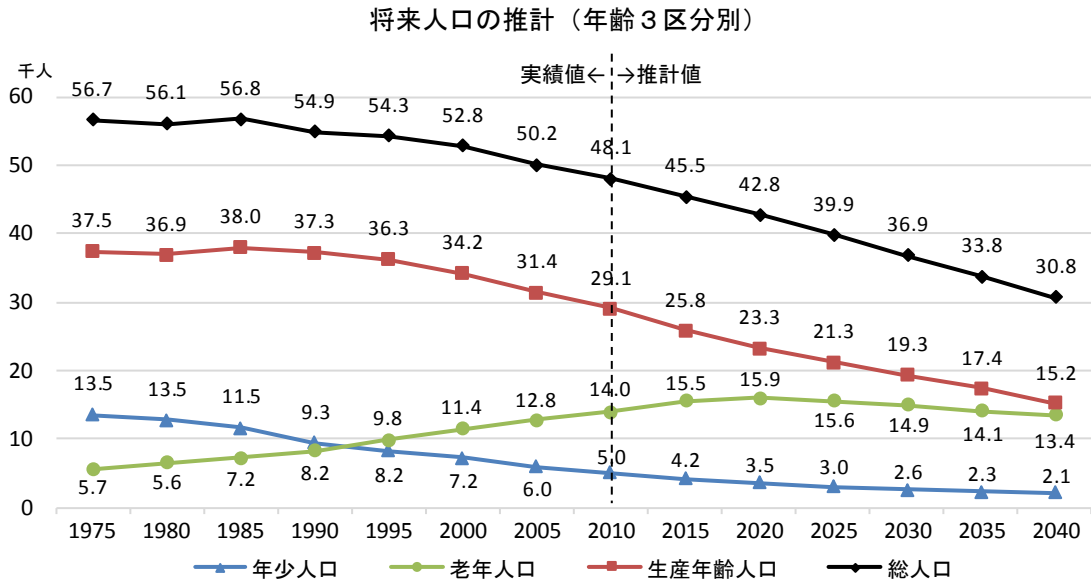
(イ) 地域間の移動

近年の富津市と市外各自治体との間の転入超過数の動向を、2012年と2013年の2年間の合計で見ると富津市の転出超過のほとんどが近隣市(木更津市、君津市、袖ヶ浦市)との間の移動によるものであることがわかります。



2 将来人口の推計と分析

社人研推計では、現在まで続く年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)の減少がこの先も続いていきます。また、老年人口(65歳以上)も2020年をピークとして減少に転じる見込みです。

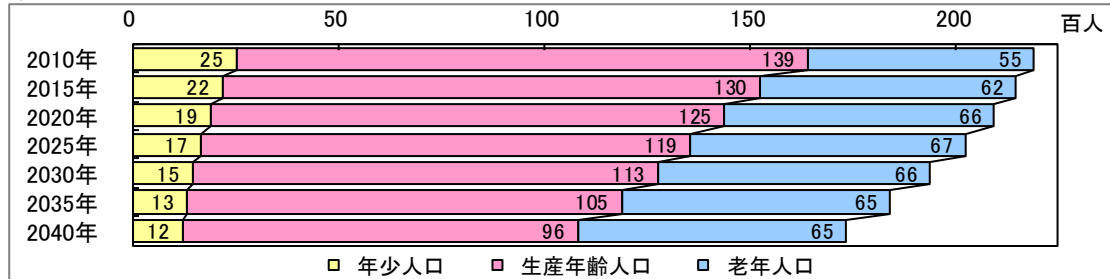


実績値は「国勢調査」・推計値は「国立社会保障・人口問題研究所」の値

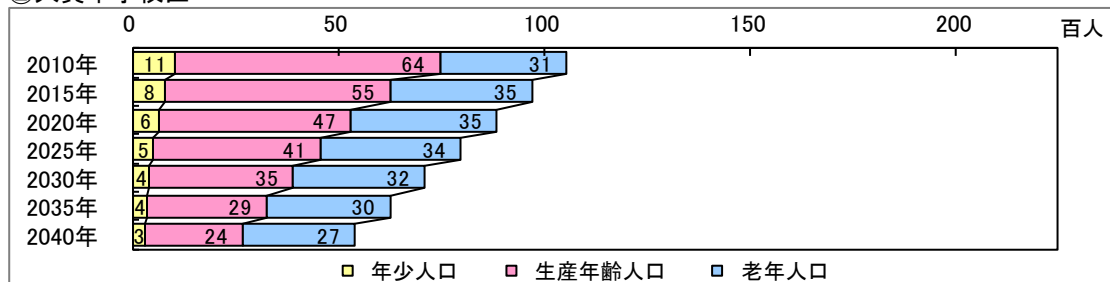
地区別では、いずれの中学校区の人口とも減少する見込みですが、減少幅は下のグラフのとおり、富津中学校区の人口と比べてその他の中学校区の人口は、大きく減少する見込みです。

中学校区別人口推計（3区分年齢別）

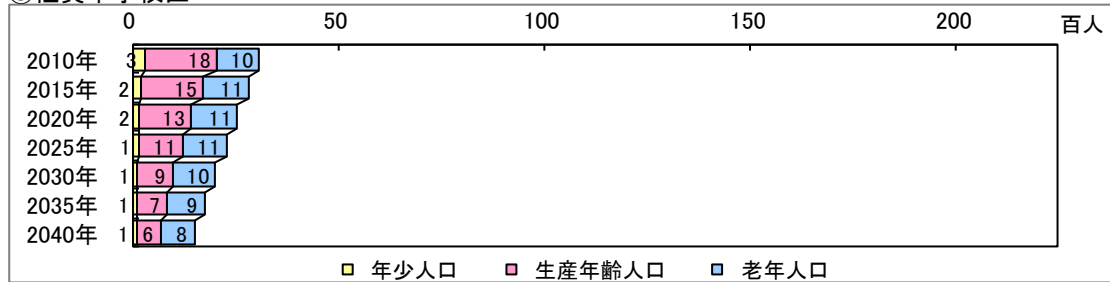
①富津中学校区



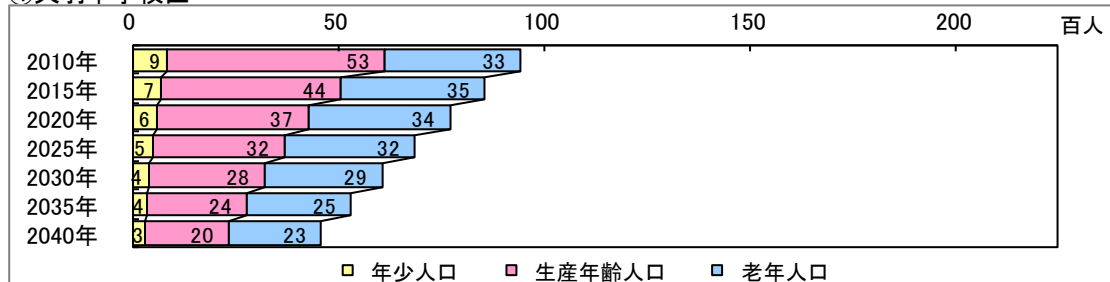
②大貫中学校区



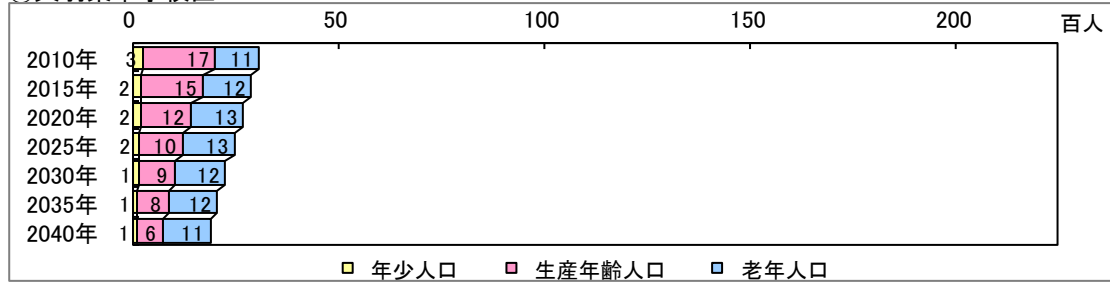
③佐貫中学校区



④天羽中学校区

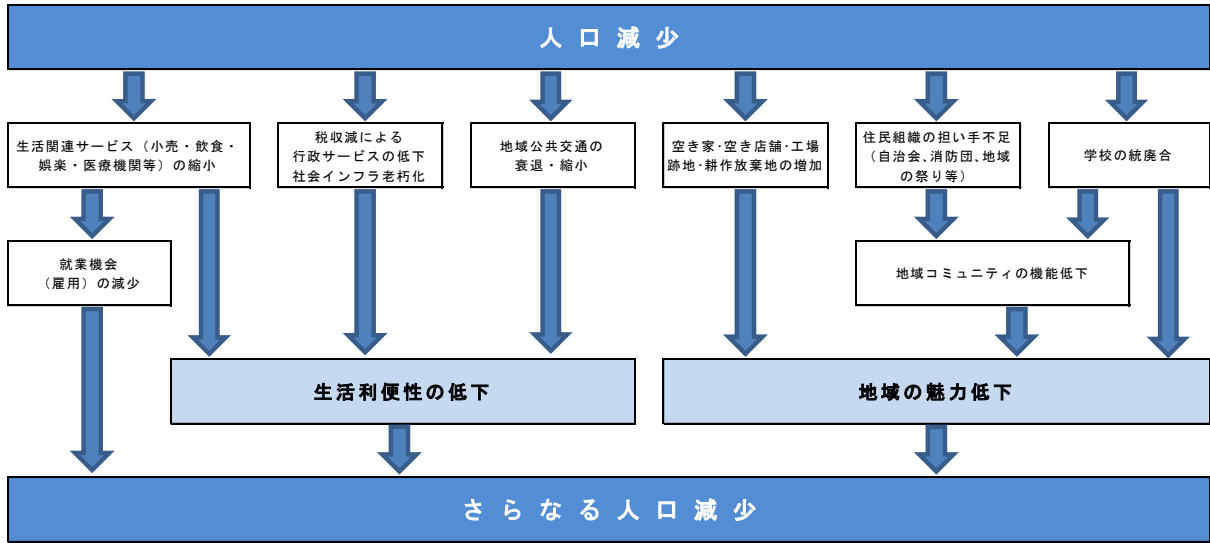


⑤天羽東中学校区



3 人口減少による影響

人口減少は、次図のとおりさまざまな分野に影響を及ぼすとされています。



資料) 国土交通省

第3章 人口の将来展望

1 将来展望に必要な調査分析

人口の将来展望を行うにあたって、次の調査を行いました。

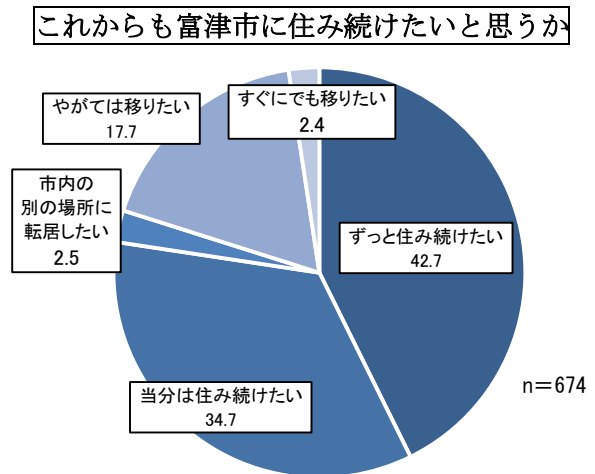
①市民意識調査

調査期間：平成27年6月2日～6月22日
調査対象：市内在住の15歳以上の男女 2,000人（無作為抽出）
調査方法：郵送による配布・回収方式
回答結果：配布数：2,000 回答数：689 有効回答率：34.5%

富津市に関する市民の認識や考え方、市民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望などを調査しました。

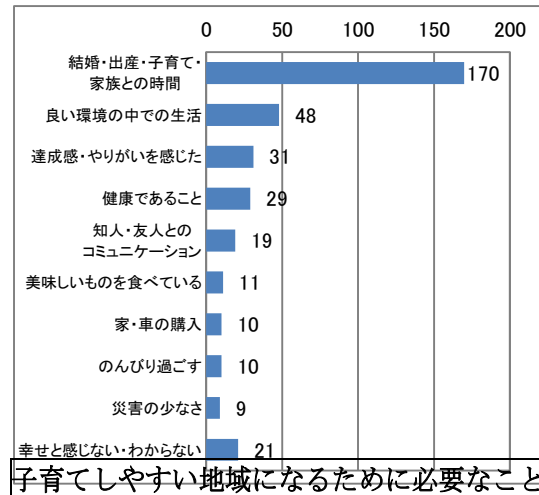
住み心地に関する質問について54.7%の人が「(まあまあ)住み良い」、定住意向に関する質問について77.4%の人が「(ずっと又は当分は)住み続けたい」と回答しています。

一方、富津市での生活の満足度については多くの項目で「不満」が「満足」を上回っており、特に「公共交通網の整備」「働く場所の創出」「医療」などの項目で、不満との回答が多くなっています。

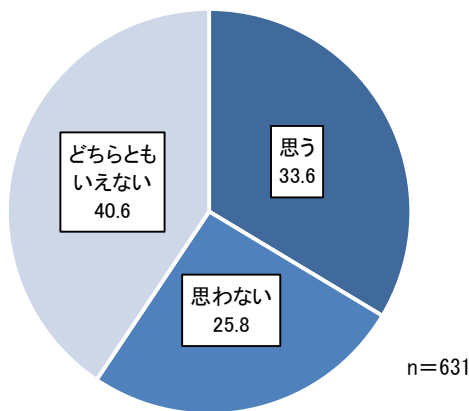


「今までで最も幸せだと感じたとき」の質問について「結婚・出産・子育て・家族との時間」に関する回答が最も多い。一方、子育てをしにくいと感じる回答が多く、子育てしやすい地域になるために必要なことについては、「働く場の確保による経済的な安定」という回答が突出して多くなっています。

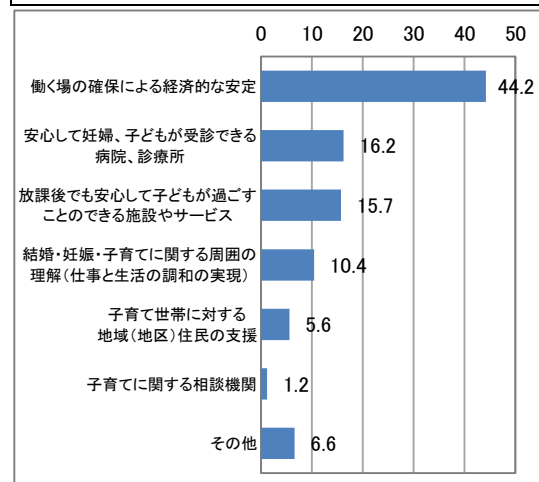
今までで最も幸せだと感じたとき



子育てをしにくいと思うか

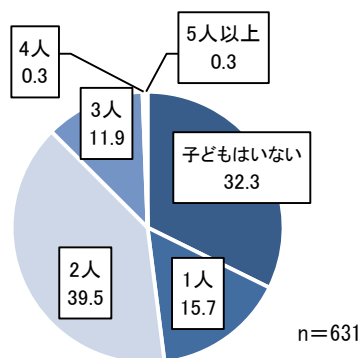


子育てしやすい地域になるために必要なこと

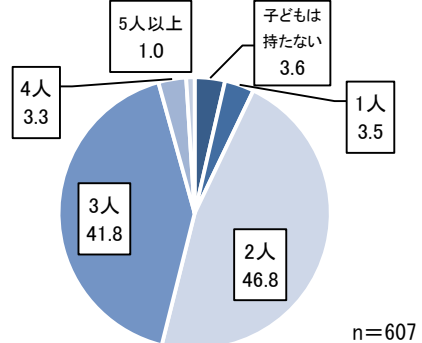


夫婦が希望する子どもの数や独身者の結婚希望率などの調査結果から、市民の希望がかなった場合での出生率「希望出生率 (1.83)」を算出しました。

現在の子どもの数



理想とする子どもの数



希望出生率とは

・市民意識調査の結果等から、「既婚者の割合及び夫婦が予定する子どもの数」と「未婚者の割合、未婚者が結婚を希望する割合及び結婚した場合に理想とする子ども数」に離婚や死別等の影響を考慮して算出した、市民の希望がかなった場合の出生率をいいます。

②市外居住者アンケート（web アンケート）

調査期間：平成 27 年 8 月 5 日～8 月 7 日

調査対象：以下の地域に居住する 20 歳代～60 歳代の男女 計 1,000 人

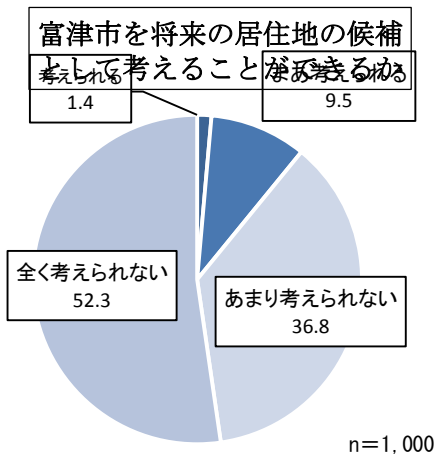
- ①「県内都市部」：市川市、船橋市、浦安市、習志野市、千葉市 300 人
- ②「近隣自治体」：木更津市、君津市、袖ヶ浦市、市原市 300 人
- ③「安房地域」：館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町 100 人
- ④「東京都・神奈川県」：東京 23 区、横浜市、川崎市 300 人

調査方法：インターネットを介したWEBアンケート調査

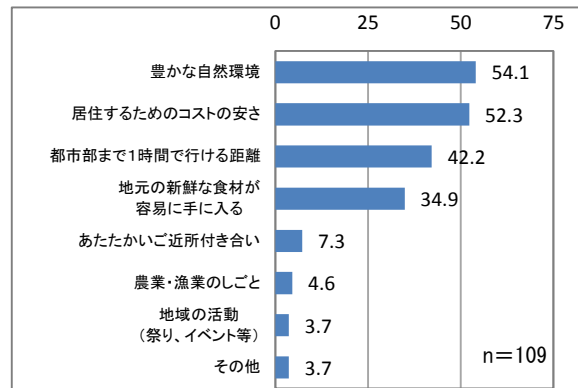
回答結果：調査数：1,000 回答数：1,000 有効回答率：100%

市外居住者の富津市に関する認知度、来訪・移住に関する意識などを調査したところ、「富津市を将来の居住地の候補として考えることができるか」の質問に対し、1.4%が考えられると回答しています。

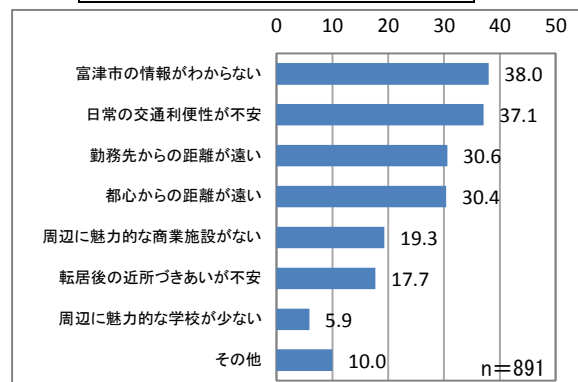
その要因については、「豊かな自然環境」（54.1%）、「居住するためのコストの安さ」（52.3%）との回答が多く見られました。



移住先として考えることができる要因



移住先として考えられない要因



移住先として考えられない要因については、「富津市の情報がわからない」（38.0%）が最も多くなっています。

③転出者アンケート

調査期間：平成 27 年 4 月 1 日～8 月 31 日
調査対象：富津市から転出した世帯の代表者
調査方法：転出届の提出時のアンケート調査
回答結果：調査数：546 回答数：215 有効回答率：39.3%

富津市から転出することとなった原因などを調査したところ、転出理由は仕事の都合が最も多く、富津市に住んでいて不満だった点については、「交通の便」、「買い物の利便性」、「雇用環境」が多くなっています。

2 目指すべき将来の方向

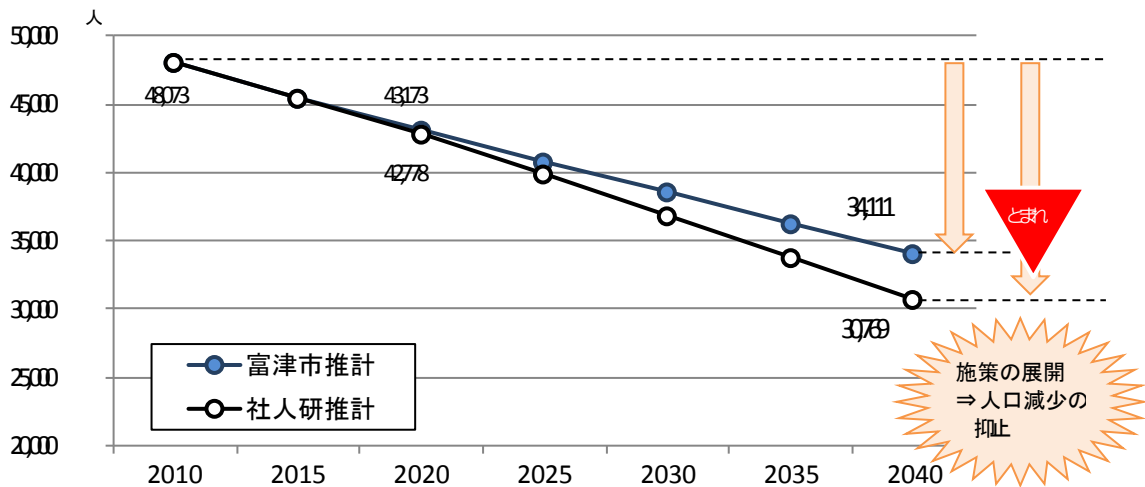
年少人口の減少は、将来子どもを産む世代の減少となることから、更なる人口減少につながります。また、人口減少に歯止めをかけるための施策は、効果が出るまでに 20～30 年（1 世代）かかります。

このため、人口減少に歯止めをかけるには、可能な限り早期に年少人口減少の抑止策を実施することが必要です。

「住み続けたい、移住したい」と思う住民満足度の高い魅力的な富津市を目指し、また、多くの市民が幸福を感じている「結婚・出産・子育て・家族との時間」について満足度が高まる取組により、年少人口減少に歯止めをかけます。

- ①. 市民の「出産・子育て」に関する希望を叶える
- ②. 市の強み(豊かな自然)を活かし、転出を抑制し、転入を促進する
- ③. 人口が減少するまちでも市民が幸せになるまちをつくる
⇒市民の満足度向上により、人口減少を少しでも抑制する。

3 人口の将来展望



富津市推計は、総合戦略に掲げる施策を行うことにより、市民の希望出生率 (1.83) を

叶えることと転出抑制（若年層の 10%）とファミリー層転入（5 年で 300 人）を実現することで 2040 年に 34 千人を目指します。

人口の将来展望については富津市民委員会でも議論をしましたが、人口減少のまちのイメージがつきにくいなどの意見がありました。

人口の将来展望はまちづくりそのものに影響することから、引き続き市の将来のイメージを市民と共有することを目指すとともに、今後、本ビジョンと現実とのかい離を防ぐため、定期的に見直します。